

トピックス静岡

第9号

2017/5



目 次

●会長あいさつ	2
●特集『地域包括ケアの現状と栄養士・管理栄養士への期待』	3
●研修部『静岡県栄養士会 研修会無料化の効果について』	5
●平成29年度研修会予告(案)	8
●第2回 静岡県栄養士大会(学術研究会)の報告	8
●広報事業部からのお知らせ(研修会申し込み方法他)	9
●職域事業部からのお知らせ	11
●地区ブロック活動報告・地区交流会	13
●平成28年度 被表彰者	14
●地域で活動している団体	14
●栄養ケア・ステーション事業について	16

公益社団法人 静岡県栄養士会

ホームページアドレス <http://www.shizu-eiyoushi.or.jp>

メールアドレス webmaster@shizu-eiyoushi.or.jp

【会長あいさつ】

公益社団法人 静岡県栄養士会

会長 坪井 厚



春風の心地よい季節となりました。正会員・賛助会員の皆様には、毎日お元気でご活躍のことと存じます。平成 28 年度静岡県栄養士会事業の推進に際し、会員の皆様をはじめ行政、関連職能団体の多大なるご理解とご協力を賜り、予定した事業の 90%以上を実施し、来る 29 年度定時総会にて正会員の皆様にご報告し、承認を受ける運びとなりました。

心よりお礼を申し上げます。(正会員の皆様には、定時総会へのご出席又はハガキ[委任状]の投函をお願い申し上げます。)

さて、総務省が 5 年に 1 回実施している平成 27 年国勢調査結果では、我が国の総人口は調査開始以来初めて減少し、65 歳以上の高齢者の総人口に占める割合が過去最高の 26.6%となり、超高齢社会が確実に進んでいることを発表しました。本年 1 月には、日本老齢学会より高齢者と定める年齢を 5 歳引き上げるべきとの提案も出され、社会で活躍できる年齢層が伸び、高齢者への社会参加が益々期待されております。

安倍首相は、「新三本の矢」と称し、1) 希望を生み出す強い経済、2) 夢を紡ぐ子育て支援、3) 安心に繋がる社会保障、を公言しました。1) は GDP 600 兆円、2) は出生率 1.8%、3) は介護離職ゼロ、との具体的な指針も示しております。

更に厚生労働省は、介護を必要としない高齢者比率を高めるための方策として、1) バランス良い食生活、2) 適度な運動、3) 社会参加、を国民に呼び掛けております。

我々栄養士・管理栄養士は、正しい食の摂取を啓発し国民の健康保持増進と健康寿命の延伸に寄与するため、様々な職場で汗を流しております。時代を少し遡れば、1920 年代に次々にビタミンが発見され、それからわずか 100 年足らずです。栄養素のバランス良い摂り方と健康長寿に関するエビデンスは、まだまだ始まったばかりであり、専門職種としては、夢多き職業と言えます。日々研鑽を重ね、現場でのエビデンスを栄養士会の基に集め、実証に対する国民の支持を受ける事が大切です。

29 年度の当会活動は、ますます県市町と連携し、医師会・歯科医師会をはじめとする関連職能団体との密な連携を県民市町民の足もとで具現化するため、栄養ケア・ステーションの充実に力を注ぎます。各事業部会を介しての会員のスキルアップ研修会や公益事業に対しては、正会員・賛助会員皆様の尚一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

2022 年には、第 8 回アジア栄養士大会が日本で開催されることが決定しました。多くの栄養士・管理栄養士の方々が国際的な場において、日本の食文化が関与した健康長寿社会について再認識するとともに、日本の栄養士・管理栄養士の実力を海外に示して欲しく思います。

結びにあたり、会員の皆様のご健康とご多幸のもと、実りある仕事ができますことを祈念いたします。

地域包括ケアの現状と栄養士・管理栄養士への期待

公益社団法人 静岡県栄養士会
会 長 坪 井 厚

世界が注目する、日本の超高齢社会

2016年敬老の日に関が実施した調査では、我が国の100歳以上の高齢者は65,692人でした。日本人が短年で超高齢社会を築いた要因は、医療技術の進歩や薬剤の開発、インフラの整備、そして食環境の充実が大きな要因と言えます。また、食事情と長寿の関係では、昭和初期の敗戦国が味わった食料難からの栄養素欠乏症時代、昭和末期のバブルが生み出した飽食メタボ増産時代が生活習慣病の増加につながり、現在の医療保険料の支出額増大は、深刻な問題となっています。逆釣鐘型社会と言われる現在の日本、4人に1人が高齢者、2035年には3人に1人が高齢者となります。短年でこのような超高齢社会となった日本がダメージを少なくしていかに切り抜けるかを、世界の先進国や発展途上国は注視しております。

先人には想定外だった平均寿命

人生50年と言われた昭和初期、人生60年に伸びた昭和末期、人生90年とも言われる平成、先人にとっては今日の超高齢社会は想定外だったのです。それらは、年金問題や医療保険、定年制度など、法改正やルール変更しなければ社会が対応しきれない決まりごとが身近に沢山あることから解ります。平均寿命が長く健康寿命が短い県は、それだけ医療費を多く使っていると言えるでしょう。生産人口が多く、高齢者が少なかった以前は、国・県・市町が多くを負担してくれました。近年は、公助から共助に、そして自助に移ろうとしております。身の周りの事が自分でできない弱者は、家族や自治会で助け合い余生を送って下さいと言う事です。つまり、少子超高齢社会では、元気な高齢者が弱った高齢者の身の周りの世話をしなければいけないと言う事です。

元気な高齢者をたくさん増やす事が大事

現在、地域包括支援センターは全国に4,300か所設置されておりますが、地域包括支援センターの従来通りのサービス機能と役割を考えると、膨れ上がる高齢者数に、その数もマンパワーもとても足りません。そこで、対策の一つとして、元気な高齢者を増やすことが挙げられます。地域包括ケアを、行政の旗振りの下、関連職種が連携して効率よく推進することです。個々人が、自分の知識と知恵と支出で、自分の健康寿命の延伸に努力すると言う事です。具体的には、国・県・市町が誰にでもできる健康長寿の方法を専門職能団体と協力し、国民へ啓発します。国民は、その情報を取り入れ自分の生活レベルに合った方法を選択し、自分の支出で食環境・運動環境・社会参加を実践し、病気の予防と健康寿命の延伸に努める努力をしていただくのです。



いろいろな民間企業の協力参加

厚生労働省は、「地域高齢者等の健康支援を推進する配食事業の栄養管理の在り方検討会」の報告書をまとめ、2017年3月2日付で公開しました。内容は、地域包括ケアシステムの下、「医療・介護関連施設と自宅等を切れ目なく繋ぐ、適切な栄養管理を可能とする食環境の整備が極めて重要」と指摘。配食事業者への留意事項として、「利用者に合った食事の選択・入手等の支援が事業者自らでは対応困難と判断した場合は、かかりつけ医療機関、地域包括支援センター、自治体等への相談を当該利用者等に提案するなど、適切な支援に繋げる対応をとることが適当」とし、適切な医療機関を受診することの重要性も示しました。

この厚労省の文章の中に、「栄養ケア・ステーション」の文字が入る事が望ましいですね。

この記事は、配食事業者と地域包括支援に係る機関との連携の推進です。この他にも、2016年10月から開始された、厚生労働省と日本薬剤師会が協力しての「健康サポート薬局」の推進や宅配業者とのコラボで人里離れた所に住む高齢者へのサポート、高齢者の孤食を少なくするための共同食堂の推進など、高齢者の健康保持に関するシステムを関連企業に求める動きがいくつか出ております。また、それらを繋ぐためのITソフトの市町向けツールなども開発され始めました。

栄養士・管理栄養士の今後の役割

この様な状況の中、団塊の世代（約800万人）が75歳以上となる2025年（平成37年）以降は、国民の医療や介護の需要は更に増加することが見込まれます。

厚生労働省は、2025年を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制の構築を推進すると公表しております。

我々、栄養士・管理栄養士は国民が日々の食生活を通し、健康の保持増進や病気の予防、ロコモ（運動器の機能低下）・サルコ（筋肉量の減少）・フレイル（虚弱）の進行を防止するための個人個人の現況に合った栄養素（食品の選択・量と質・栄養補助食品など）の摂取方法を具体的に伝え、そしてそのEBNを出さなければいけません。よい結果を出すためには、対象者の元へ足を運ばなければ達成できぬことだと思います。

オーラル フレイル のチェック

昨今、アンチエイジング（抗老化）という言葉をよく聴きます。誰もが永遠の若さを望みますが、人は時の流れと共に老いていきます。しかし、その速度を弱めたり、若さをある程度保つことはできます。老眼や難聴は自分や家族にも解りますが、嗅覚や味覚、咀嚼力、嚥下力の衰えは意外と本人も気付いておりません。食事でむせが多くなる、咳き込む、口の脇からこぼす、味付けが濃くなるなどがその兆候です。家族など周囲の人が気を付け、早めの復活リハを行えば、機能を取り戻すことが十分にできます。軟らかい食べ物ばかり摂らず、食事に時間をかけ、良く噛むだけでもアンチエイジングに役立つのです。

具体的には、国・県・市町が誰にでも出来る健康長寿の方法を専門職団体と協力し国民へ啓発します。国民は、その情報を取り入れ自分の生活レベルに合った方法を選択し自分の支出で食環境・運動環境・社会参加を実践し、病気の予防と健康寿命の延伸に努める努力をしていただくのです。

～（公社）静岡県栄養士会 研修会無料化の効果について～

（公社）静岡県栄養士会では、平成 28 年度より理事会で何度も会議を重ね、①プロフェッショナルの栄養士として社会貢献するため ②社会からの認知ならびに地位向上を目指して強い組織に発展していくため ③多様化する会員のニーズにお応えするためという3点で必要と判断し、年会費を2,000 円値上げさせていただきました。

皆さまのご理解・ご協力のおかげで良い効果が得られていると実感しております。

実際に平成 27 年度と 28 年度の研修会参加状況を比べ、年会費値上げ前後で研修会無料化に効果があったのか、また、昨年 11 月 26 日、12 月 11 日の研修会参加者（164 名、回収率 85.3%）に伺ったアンケート調査の結果をあわせて報告します。

平成 27 年度は、認定管理栄養士・栄養士受験のための単位取得の便宜をはかるために研修会は 56 回開催しました。一方、平成 28 年度は研修会の参加費を無料にするため回数を減らし、関心が高い内容に絞りました。

その結果、平成 28 年度の開催回数は前年度の半分かくらいになりましたが、参加率は 6%アップしました。また、一人が参加する回数も 3 回・4 回の割合が増え、特に 20 代から 40 代の参加率が高くなりました。

参加者が多かった研修会のタイトル

平成 27 年度	平成 28 年度
・食品成分表の読み方・使い方と成分表 2015 の概要	・食物アレルギー対応食の献立、調理について
・食事摂取基準 2015 を理解し健康な食事を考える	・栄養診断、栄養診断で見つける薬物の副作用と実際
・脂質の栄養学(代謝と作用)	・がんの栄養学、水・電解質の栄養学
・アミノ酸の栄養学(代謝と作用)	・在宅高齢者の栄養管理
・健康づくり提唱のつどい「食べることは生きること～賢くたべて、腸から健康に～」	・超高齢化社会に対する地域包括ケアシステムの構築
・腸内フローラと健康～高齢者の健康管理におけるプロバイオティクスの有用性～	・糖尿病治療の現状と課題～カーボカウントを含めて～

＜研修会開催比較＞

	H27年度	H28年度 ^a
会員数(人)	1586	1395
開催数(回)	56	25
参加者が80人を 超えた研修会数(回) ^b	6	6
参加者数(人)	516	548
全会員に占める 参加状況割合(%) ^c	33%	39%
1回(1～2回)	46%	46%
2回(3～5回)	25%	23%
3回(6～7回)	9%	12%
4回(8～9回)	5%	7%
5回(10～11回)	4%	4%
6回(12～13回)	3%	3%
7回(14～15回)	2%	1%
8回(16～18回)	2%	1%
9回(19～20回)	1%	1%
10回(21～22回)	3%	1%
10回以上(21回以上)	3%	1%
年代別 参加 状況	20代 7(13%) 30代 10(18%) 40代 36(64%) 50代 52(93%) 60代 10(18%) 65歳以上	5(20%) 10(40%) 21(84%) 23(92%)

a: 2月の研修会開催分まで

b: 総会を除く

c: ()は平成27年度の割り振り

Q1: 今年度から研修参加費が無料になったことで、研修会に参加する機会が増えましたか？
 Q2: 無料化したことをどう思いますか？

*「大変満足」「やや満足」を
 合わせると 89%が無料化に満足
 している（図 1）。

*参加割合は 40 代、50 代が 26%と
 高い。50 代は従来から参加割合が
 高い年代のためか無料化に伴う参加
 回数の増加について「どちらともい
 えない」の回答が多い。

*30 代、40 代の 13～15%が「増え
 ていない」という回答している。

*20 代の参加割合は他の年代より
 17%と低いが、参加回数は 70%が
 「増えた」と回答しており、年代間
 に有意な差がみられた（図 2）。

*無料化に関する満足度については、
 年代間に有意な差はなかったが、
 20 代、40 代で 75～80%が「大満足」
 と回答している割合が高い傾向にある（図 3）。

図 1：無料化に対する満足度と参加回数の関係

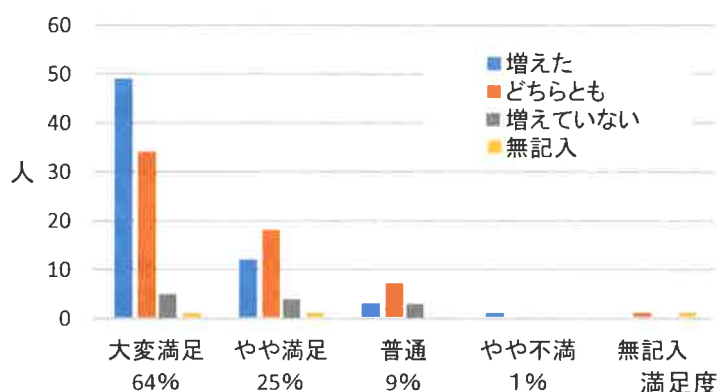
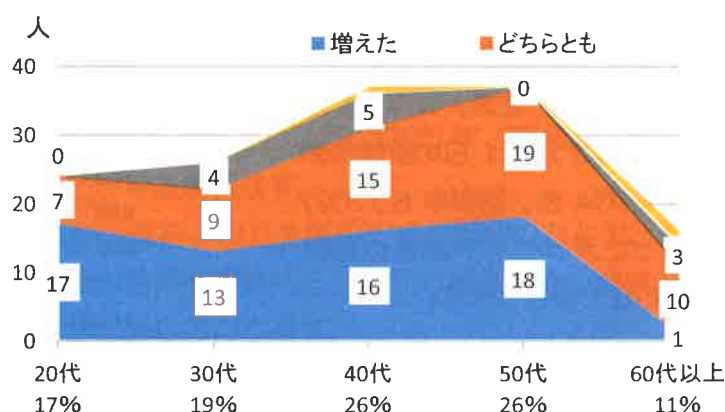


図 2：無料化に伴う研修会参加数（年代別）



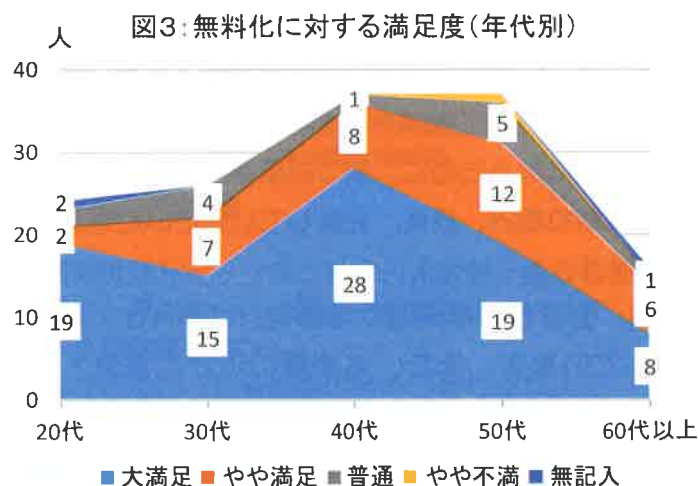
研修会無料化と参加回数についての自由記述

満足	受付がスムーズになったのでだいぶ改善されたと思います。	
	講師の先生が以前より参加したい方々になりました。	
	開催数は減りましたが内容は濃くなったと思います。	
やや満足	外部講師は大変勉強になる。地区別に研修会場が変わったことで出やすい研修もあったが交通費が高く考えてしまうものもあった。回数が減ったことで月のバランスが悪く、仕事と重なるとまったく研修会に参加がない月もあったりします。また毎週土日にあることがストレスになることも・・・	
ふつう	無料化により受付時の集金なくなるのは、当日の担当者の負担が減っていいと思う。	
	研修費が無料の分を交通費にまわせるので、遠方でも参加しやすい。	
	旅費だけの負担なので参加しやすくなった。	6人
参加回数が	年会費が上がり、参加しないと会費はもったいないと思うから。	2人
増えた	気軽に参加してみようと思えるようになりました。	2人
	費用のことより、時間的余裕ができたため。	
	無料研修の方が出張しやすいため。	

どちらとも いえない	金額よりも内容で参加するかしないか決めるため。	5人
	研修内容と開催日程や場所があれば参加しているため。	2人
	研修会の場所(中・西・東)によって出席できない場合もあるため。	5人
	内容によるが交通費の方が負担大のため。	
	忙しかったり、仕事や家の事情等都合が悪いことが参加できない理由のため。	5人
	土・日曜日が仕事の為、参加機会に限りがある。	4人
	勤務がシフト制なため順番で研修会に出席しているため。	
	研修会の全体数が減ったので増えたとは言えないため。	
増えて いない	以前から参加しているため。	
	自分にとって必要・興味がある研修会にしか参加しないため。	
	会場が分散されたため遠くまで行かなくなった。	3人
	内容によるが交通費の方が負担大のため。	
	参加したくても家庭の事情で参加できない。	
	自己都合で参加できないことが多かったため。	2人
	日程で決めていることと、ほとんど仕事をしていないので研修会参加は少ないです。	
	土日、平日夜は用事があり参加できないため。	



調査へのご協力ありがとうございました。
 研修会の参加状況調査から、会費値上げに伴う参加費無料化は、効果良好の結果でした。しかしながら、研修会の参加率は全会員の約4割で、1～2回しか参加できない会員が多い現状も一方で明らかになりました。今後は、研修会に参加できない人の声をいかに集めて運営につなげていくかが課題です。研修部では本年度も、会員が勉強したい内容、必要な情報を得られる研修会を企画しています。ぜひ、参加してみてください。



公益法人の責務として栄養士・管理栄養士の知識・技術で社会貢献し、仲間を増やして強い組織に発展していくために、今後も皆様のご理解・ご協力をお願いします。

【平成 29 年度研修予告（案）】 静岡県栄養士会ホームページより 研修会の申し込みを！

開催日	研修内容	講師	開催場所
6 月 3 日（土）	管理栄養士・栄養士の知識で、 日本をもっと元気に！（仮）	神奈川県立保健福祉大学 鈴木志保子 先生	あざれあ
7 月 2 日（日）	栄養診断	臨床栄養実践協会理事長 足立香代子 先生	静岡 AOI
8 月 26 日（土）	アレルギー対応にいかす面談技法（演習含む）	県立こども病院管理栄養士 鈴木恭子 氏	あざれあ
9 月 3 日（日）	パワーポイントの効果的な活用	日本大学短期大学部 篠原啓子 氏	日大三島
9 月 30 日（土）	高齢者と栄養（仮称）	沖縄メディカル病院 副院長 吉田貞夫 先生	あざれあ
10 月 22 日（日）	全身状態から見る栄養管理（仮）	済生会横浜市東部病院 谷口英喜 先生	日大三島
11 月 3 日（金）	《指導者の為の健康・栄養セミナー》 スポーツ栄養	神奈川県立保健福祉大学 鈴木志保子先生 ・ 未定	あざれあ
11 月 11 日（土）	DAT 研修（災害支援研修）	未定	あざれあ
11 月 18 日（土）	在宅介護者食生活支援研修会	未定	あざれあ
12 月 2 日（土）	特定保健指導からの糖尿病予防（仮） 特定保健指導演習	あいち健康の森健康科学総合センター センター長 津下一代 先生 日本栄養士会特定保健指導担当管理栄養士運営委員 菊池真代 氏	あざれあ
2 月 10 日（土）	第 3 回静岡県栄養士大会 ・ 病態栄養講座	未定	静岡市内

第 2 回 静岡県栄養士大会（学術研究会）の報告

平成 29 年 2 月 11 日（土）に第 2 回静岡県栄養士大会を実施。約 100 名の方が参加し、あざれあ 501 会議室と 502 会議室の 2 部屋で 15 演題のポスター発表、賛助会員の展示も行われ、盛況に開催することができました。発表・参加の皆さま、ありがとうございました。「栄養士としてのスキルを身につける（自己研鑽）」、「栄養士の活動の場を広げ、活躍する」、「悩みを共有し、解消し、飛躍する（輪を広げる）」、「ニーズに応え、社会に貢献し、栄養士の社会的認知を增強、地位向上を目指す」等々、さまざまな目的に沿うために、皆で知恵を集結し、力を合わせて取り組み、成長、発展していきたいと考えております。

なお、第 3 回は平成 30 年 2 月 10 日（土）を予定しています。また、本事業に何かご意見・ご要望がございましたら、お気軽にお寄せください。



	演 題	発表者
1	アレルギーインシデント年間件数ゼロを目指して	日吉洋絵（医療）
2	当院そらまめ応援外来における栄養指導の取り組み	山本友里（医療）
3	リハビリを進めるための栄養管理～症例で考える～	加藤真己（医療）
4	袋井市イベントと健康相談コーナーの「塩分チェックシート」調査結果報告及び使用効果について	関明子（地区）
5	栄養士養成施設における食と農の連携	前田節子（研究）
6	福祉寺子屋の報告	諏訪千智（福祉）
7	しだはい食支援勉強会の食事形態展開マップができました！	寺田直哉（福祉）
8	地域保健機能としての薬局の役割	横田昂希（地域）
9	血清リン濃度の管理における豆乳の有効性の評価	佐久間理英（研究）
10	小児健診の結果と生活習慣アンケートの関連について	柳澤利哉（福祉）
11	北山中学校 早寝早起き朝ごはん運動	長谷川裕恵（学校）
12	摂食障害の栄養指導の現状	高木圭子（医療）
13	NCP活用に向けての取り組み	菅沼志保（医療）
14	肥満患者における生活・食行動の特徴をふまえた栄養指導の実際-学童期・思春期を対象に-	桑原里沙（医療）
15	緊急時の給食支援について	矢ノ下聖子（勤労者）

《広報事業部からのお知らせ》

広報事業部は、静岡県栄養士会のホームページとメールマガジンを担当しています。

現在、ホームページはPCからだけでなくスマートフォンでも見ることができます。平成29年度もホームページやメールマガジンを活用して、栄養士活動を進めましょう。

TOPページには研修会案内、トピックスなど、日々の業務に役立つ情報をご案内しています。他にも研修会案内、栄養士がすすめるメニュー、当会の紹介、栄養士・管理栄養士のご紹介、入会案内、栄養ケア・ステーション、静栄DAT（災害支援）などのページがあり、毎月2回、1日と15日に更新されています。ホームページのことでわからないことや、希望等なんでもメールにてお問合せください。

静岡県栄養士会のホームページで最新情報を収集しましょう!!



最新情報トピックスや各事業部からもお覧ください。

おすすめ

会員専用ページ Monitor

従来会員及び栄養士会に入会された方にキーワードをお知らせしています。

栄養士会会員登録・会員情報変更はこちら

[ログインはこちら](#)

新着・更新履歴

研修会案内

平成28年度研修会

研修会案内および申込み >>>
日本栄養士会 WEB研修会申込みページへ

[研修会申込](#)

[WEB研修会申込の方法\(PDF\)](#)

[よくあるお問合せ Q&A\(PDF\)](#)

誰もがみられるTOPページの＜研修会案内および申込み＞から、研修会案内のページにいき、「研修会申込み」をしてください。昨年からの問い合わせがあったことについてのQ&Aができました。

会員専用

[最新情報トピックス](#)

[会員登録料変更届け](#) (※メールアドレス)

[静岡県栄養士会会長推薦による表紙表一覧](#)

[研修会実施報告](#)

[平成28年度月別研修会前期予定一覧表\(PDF\)](#)

[平成28年度月別研修会後期予定一覧表\(PDF\)](#) **NEW**

※月別研修会の予定は随時変更されるもので決定ではありません。決定した研修会についてはTOPページの研修会案内からご覧ください。

[各事業部から](#)

[職業紹介事業](#) **NEW**

[保健指導専用商品販売](#) (※販売は終了しました)

[お友達紹介制度について\(PDF\)](#)

[紹介制度申請書\(Word\)](#)

平成28年度生涯教育研修会の開催予告

[平成28年度生涯教育研修会の開催予告\(PDF\)](#)

＜最新情報トピックス＞には日本栄養士会からの情報や、厚労省からの通達も記載されています。

＜研修会実施報告＞

参加できなかった研修会内容も分かります。

前期 4月～9月

後期 10月～3月

会員専用

[会員専用TOPへ戻る](#)

各事業部から

■学校健康教育事業部

■研究教育事業部

■勤労者支援事業部

■地域活動事業部

■医療事業部

■福祉事業部

■公衆衛生事業部

各事業部の活動内容も掲載されています。

研修会の詳細については、研修会案内ページを確認して、下記の手順で申し込みをお願いします。

1. 研修会申込をクリックすると、日栄会員 WEB サービス「研修会一覧」が開きます。



<研修会申込方法>

2. まず研修会一覧で研修年度、主催、研修会(生涯学習研修会、栄養ケア・ステーション、交流会等)を選択して、検索ボタンを押して絞り込みを行って下さい。
3. 次に申しこみたい研修会が見つかりましたら **申込(会員)** をクリックして進みましょう。
その後ログインしてから研修会にチェックをいれて申込となります。

メールマガジン会員に申し込むとお得がいっぱい!

<最新情報を配信! メールマガジンを申し込みましょう>

* 直近の研修会残席状況、参加状況がわかります。

★★★直近の研修会残席状況をお知らせします★★★ (表示例)

残席状況(12月2日現在)

(◎: 余裕あり申し込み受付中、△: 10席未満、×: 満員、キャンセル待ち)

地区研修会のお申込みについては担当者へ直接お問い合わせください。

12月6日(火) ○○研修会

19:00~20:45 会場○○○

講師 △△病院

○○ ○○先生

残席状況がすぐわかる
から便利ですよ!!

* 求人情報は、「新規」と「継続」の件数が分かるようになりました。

* メールマガジン会員は、日栄のパスワードを忘れても再発行が可能です。会員は無料で研修会に参加できるので、まず申込みをしてみましょう!!

栄養士のおすすめメニューに掲載中の方へのお願い!

会員の皆様のご協力により、毎年募集しております「栄養士のおすすめメニュー」の総数が、昨年末で130メニューを超えました。お礼申し上げます。最初のメニュー募集時より、食事摂取基準や食品成分表が改訂となり、栄養価も変わったため、古いメニューを少し整理させていただいております。

現在掲載中のメニューの中で、お名前のない方や応募メニューの栄養価を新たに(七訂)計算したものに更新していただける方は、事務局へご連絡ください。

今年度は引き続き、「減塩のメニュー」を募集いたします。ご応募お待ちしております。

《職域事業部からのお知らせ》

《医療事業部》

今こそ適切な栄養管理・栄養指導を推進しましょう！

平成28年4月の診療報酬改定は、10年ぶりに大きな改定となりました。栄養指導の点数増額、指導範囲の拡大については、それぞれの職場や施設において、管理栄養士の役割が改めて見直されるよいきっかけになったのではないのでしょうか。

それに伴い、私たちはもっとスキルアップしていく必要があります。栄養ケアプロセスの基本を十分理解し、継続したアセスメントの実践が求められています。そして、退院後の病診、地域連携に繋げるために、患者・家族への栄養指導や情報提供を行う体制作りの確立に努めていきましょう。

医療事業部ではこのような状況を踏まえ、平成28年度の研修会を栄養診断、摂食・嚥下、がんと糖尿病をテーマに企画・運営しました。どの研修会も盛況で、一部、会場の都合で聴講できなかった会員がいらっしやいましたこととお詫び申し上げます。

平成29年度も引き続き、栄養アセスメントや、栄養管理を中心とした研修会を計画しています。講師に足立香代子先生、吉田貞夫先生、谷口英喜先生をお招きし、基礎から現場でもすぐに活用できる講演内容を依頼しました。どうぞご期待下さい。また、アウトカムも「見える化」を目指し、栄養士大会ポスター発表にも、積極的な取り組みをお願いしたいと思います。

そして、事業運営には皆様方の力が必要となります。職場の皆様を誘い合って本会入会とともに、研修会へ足を運んでください。



《勤労者支援事業部》

勤労者支援事業部は、外食企業、中食企業、給食会社、

食品会社、保健指導機関、起業栄養士など様々な方が所属しています。勤労者支援の栄養分野における将来ビジョンは、日本で働く人々を健康にする社会の実現に貢献することとなっています。健康日本21（第2）に基づき健康な労働者を増加させ、健康寿命延伸を推進していきましょう。また未病及び生活習慣病の対策をし、勤労者の職種別健康教育モデルの確立、また給食・外食・中食・食品メーカー・流通産業他、企業との連携による生活習慣病予防の確立を進め、みなさんと連携して健康を作る事業部をめざしていききたいと考えております。



研修会は、仲間づくりのきっかけとなり、他職域の方々と情報交換も密に行うことができます。一人でも多くの会員数を増やしていきましょう。平成29年度も、積極的な参加をお待ちしています。



《福祉事業部》

地域包括ケアシステムの構築に向けて、「介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）」を始めている市町もあるかと思います。総合事業は市町が地域の実情に合わせて、多様な主体による生活支援・介護予防サービスを重層的に提供していくとされています。栄養士・管理栄養士が専門職として施設内のみならず、地域における支援体制を構築しつつ専門性を発揮し積極的に関与していくためには、私たち自身の知識・技術の向上が不可欠です。共に専門研修会の受講を通して多様化するニーズや社会情勢に答えられるよう倫理観と栄養管理業務の質を高めていきましょう。

さらに平成30年4月は介護報酬・障害福祉サービス等報酬・診療報酬の同時改定があります。時代に合わせて、福祉の栄養士・管理栄養士に国民や社会は何を求めているのか？私たちは何をするために栄養業務をしているのか？他職種は私たちに何を求めているのか？など様々な課題を整理し、検討していかなければなりません。日々の業務に追われることなく、上を向いて共に歩んでいきましょう。

《研究教育事業部》

会員の皆様こんにちは！ 研究教育事業部では、浜松医科大学健康社会医学講座の岡田栄作先生にお願いして「栄養士・管理栄養士のための調査研究の方法、まとめ方」と題して平成 28 年度は 2 回の統計講座を開催しました。参加された方からは、研究計画の目的や方法についての基本を聞くことができて大変有意義だったとのご意見をいただきました。本事業部では、エクセルのテキストデータを使った統計処理の講習会を過去数回行ってきました。しかしながら今年度の講習の様子から、統計ソフトや PC を使えることと、統計の考え方や調査の方法を身につけることには大きな隔たりがあることがわかりました。この隔たりを埋めるためには、①調査研究の計画のしかた ②類似の先行論文の検索のしかたを習得することが必要です。これを踏まえ平成 29 年度は、よりわかりやすい研修会を開催する予定です。ぜひご参加ください。



《学校健康教育事業部》

「栄養士とは、栄養指導を業とするもの」養成校の講義で聞いたり調べたりしたことのある人がいらっしゃると思います。しかし、時間を生み出せない!!、人が少ない!!、賛同者、協力者が近くにいない!!などの壁を越えられず、叫び悩む日々もあります。それは学校に勤務する栄養士だけではありません。実態を掴む目と心を養い、児童生徒に身につけさせたいことを絞り提案し、指導に関わっていくという職務を果たすことができるよう、他の職域の栄養士と交流しながら共に高め合いましょう。

29 年度は、「アレルギー対応に生かす、面談技法」と題する研修会を計画しております。講師に静岡県立こども病院管理栄養士 鈴木恭子氏をお迎えし、アレルギー対応をはじめ、食事の状況の聞き取りや、対応食の説明時における面談技法を身につけるための一歩となる講演や演習をお願いしております。アレルギー対応における栄養士の活動の場は広がりつつあります。最新の正確な情報を、当研修会及び情報誌や静栄ホームページなどで逃さずキャッチしていきましょう。多くの皆様の参加と今後の研修会に対する御意見や御要望をお待ちしています



《公衆衛生事業部》

今年度、本事業部では、静岡県との共催で、地域包括ケアシステム公開講座を開催しました（研究教育事業部、地域活動事業部との合同開催）。2025 年に向けて、地域包括ケアシステムの必要性は皆さんわかってはいるものの、具体的な取り組みはあまり進んでいないのが現状のようです。公開講座では、先駆的な行政の取り組みについて具体的に何うことができ、これからの取り組みにつながるものとなりました。今後も、県や市町と連携した研修会を企画していきたいと考えております。

また、今日の公衆衛生的な課題の多くは、本事業部だけの取り組みでは解決できないものです。他事業部の皆さんと、お互いエンパワーメントし合い、静岡県栄養士会として何か形になるものを作り上げられるといいな、と思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



《地域活動事業部》

平成 29 年度も地域活動事業部は地域に根差した健康増進・食育活動と地域包括ケアシステム(介護予防や在宅訪問栄養指導事業等)を進めていくつもりです。各地域でグループ活動や交流会などを通じて、仲間づくりができればと思います。ホームページ等でも平成 28 年度におこなった研修会報告を地域活動事業部のページに掲載しています。ご覧いただけましたか？今年度も全国地域活動事業部のスキルアップ研修や全国大会などの最新情報も会員の皆様に報告していきたいと思います。私達は県や市町村からの委託事業や静岡県栄養士会の栄養ケア・ステーションへの依頼事業にも従事することが多いため、そのための研修等が企画開催されています。平成 29 年度は、6 月 24 日(土)に食育リーダー研修、また平成 30 年から特定健診・保健指導の運用の見直しがあるため、12 月 2 日には津下一代先生をお呼びして最新情報の研修会を開催する予定です。また自分の仕事に関連する診療報酬や、介護報酬の改訂などの情報も研修会に参加することで、情報がえられ皆様のスキルアップにもつながるかと思います。今後とも地域活動事業へのご協力と研修会へのご参加をお願いいたします。

地区ブロック活動報告

【東部ブロック】

東部、東伊豆、田方・修善寺、富士・富士宮の4地区で組織され、今回初めて公開講座を開催しました。四地区はとても広いので、役員の打ち合わせをするのも大変でしたが、講師が遠方の方でも、皆が興味あるテーマで、一人でも多くの栄養士や地域住民の参加が得られれば…という思いから、開催に踏み切りました。結果、内容もよく、県東部の栄養士同士が知り合い、他職種との接点もでき、初回にしては大満足の講座でした。

【中部ブロック】

中部ブロックは、清庵地区、中部地区、志太・榛原地区で構成されております。

平成28年度のブロック研修は、中部地区が担当し、以前から地区研修でシリーズ化していた糖尿病についての研修会を実施致しました。講師の先生は、静岡済生会総合病院内分泌代謝科科長、稲葉直之先生にお願いし、「高齢者の糖尿病」と題しまして、ご講義を頂きました。参加者は、会員43名、会員外4名の計47名、会場は、それぞれの地区の方が参加しやすい静岡市街地の「あざれあ」で実施致しました。ブロック研修会では、各地区の役員、会員の方々とコミュニケーションをとることができ、とても有意義な時間となりました。皆様も地区の枠を超えて、参加してみたいはいかがでしょうか。

【西部ブロック】

平成28年10月21日に浜松福祉交流センターにおいて、西部ブロック研修会（西部地区・中東遠地区合同研修会）を開催しました。講師に浜松医科大学内分泌内科の釣谷大輔先生をお迎えして「糖尿病療養指導に必要な最新の知識と実践」についてご講演いただきました。平日夜間にもかかわらず会員50名のご参加をいただき、最新の糖尿病治療に関する知識を深めることができました。各地区別の研修会では参加者が20名前後にとどまっていたのですが、2地区合同で開催することにより効率よく運営できることが実感できました。平成29年度も開催を予定しておりますので、より多くの会員のご参加をお待ちしております。

地区交流会

昨年、栄養士の交流する機会を増やし、仲間づくりのために東部地区、中部地区、西部地区と交流会が開かれました。今年も各地区で開催予定です。会員以外の方も参加できますので、皆様お友達を誘ってぜひご参加ください。



東部地区交流会



中部地区交流会



西部地区交流会

職場では少ない人数だけど
栄養士会に行くと仲間が一杯いるんだよね！



平成 28 年度 被表彰者



◇厚生労働大臣賞 佐野ちえみ様 (地域活動事業部)

この度、神戸市で開催された全国栄養改善大会において、厚生労働大臣表彰を賜り、身に余る光栄と思っております。

表彰式に出席させていただき、この受賞を励みに地域活動事業部の管理栄養士として、なお一層の研鑽を重ねていかなければならないと身が引き締まる思いで一杯になりました。また、受賞することができましたのも、ひとえに会長、静岡県栄養士会の諸先輩のご指導のおかげと深く感謝申し上げます。これからも、高齢化が著しい国の現状です。栄養ケア支援の推進を頭に置きそれぞれの活動に精進し、管理栄養士・栄養士の地位向上と県民の皆様のお役に立つよう努力して行きたいと思っております。

◇静岡県知事表彰 栄養指導業務功労者 関 明子様 (福祉事業部)

会長始め理事の皆様を支えられ、福祉の諸先輩に守られ、35 年余りを栄養士として仕事を続ける事ができ、このような名誉ある賞を頂き光栄に思っております。多くの職種の方々と知り合い、学びの機会を与えられたことは私の宝であります。今後も一層の努力をし、励んでまいります。ありがとうございました。

◇静岡県知事表彰 栄養指導業務功労者 芹沢正江様 (福祉事業部)

この度、思いもかけぬ受賞を戴き、職場の会長・局長をはじめ、職員の方々より立派な蘭を戴くというサプライズを受けました。家族にあっては、長きに亘って協力を得ている主人にも、感謝の気持ちで一杯です。栄養士会から推薦のお話を戴いた折は、父の具合が悪く、辞退させて戴こうかと思いましたが、普段褒めることのない母が受賞を喜んでくれました。その母は受賞の一か月後に急死、父は年明けて一月早々に亡くなり、親孝行になったと思っています。今後も町民の皆様に微力ながら恩返しをさせて戴こうと思っております。

☆地域で活動している団体☆

《東部栄養サポートの会》 代表 白石 明子

この会は、東部地区の医師会との連携を将来的に考えるにあたり、管理栄養士のスキル向上や繋がりづくりを目的に平成 25 年 7 月から始まりました。現在の登録数は 27 名。クリニックでの栄養指導や市町村の特定健診・特定保健指導に関わっているため、症例検討や栄養ケアプロセスの用語マニュアルなどの勉強会をこれまで行ってきました。写真は三大栄養素の代謝について学び直しをしているところです。



《浜松フリー管理栄養士の会》 代表 木下 初代



私達の会は、地域の皆様の健康的な食事をサポートする事を目的に活動をしています。会員は10名で、県栄養士会会員・地域活動に所属していることが条件です。浜松市内の各協働センター・その他施設等からの依頼事業が中心です。生活習慣病の予防・高齢者のための食事・食育・男性料理等と多方面に渡っています。奇数月には会合を開き、情報の交換・調理実習等をして技術の向上と会員の親睦を図っています。

《窓の会》 代表 長島 顕子

富士宮市及び富士市内在住の管理栄養士・栄養士を中心に構成された自主的な勉強会です。栄養業務にパソコンの活用が必須になった状況に対応しようと始めたのが元々のきっかけで、“window s”のwindow=窓が名前の由来です。月1回集まり情報交換のほか、テーマに沿った献立を作成し“栄養士がすすめるメニュー”に毎年に応募しています。またにじます祭りなどで、レシピの紹介等を通して協力し、地域の食育活動に深く関わっています。



《御殿場小山地域活動栄養士会》 代表 稲 葉子

平成2年に御殿場小山在宅栄養士会として発足以来、数多くの事業を担当する傍ら、献立集の編集、発刊にも取り組みました。平成13年に地域活動栄養士会と改め、市町の母子、成人の栄養指導、食生活指導、食生活推進協議会の育成等に携わっております。現在も毎月定例会を開き、会員相互の情報交換、勉強会を続けながら、御殿場市のよい歯の集い、小山町の健康フェスタ等に参加して、食育の推進に努めております。



《しずおか病態栄養士の会》 代表 森田 久美子

静岡県栄養士会と静岡市静岡医師会との連携のもと、葵区・駿河区の開業医での外来食事栄養指導を行っている管理栄養士のグループです。月に一度定例会を開き、情報交換や症例検討を通し、スキルアップやモチベーションの維持・向上、更に親睦を深めています。2年程前より、在宅訪問栄養指導の依頼も受け、2 医院で実施しております。年2回の医師会との会議で、医師会の先生方との意見交換もしております。開業医での食事栄養指導・在宅訪問栄養指導に興味のある方、ぜひ参加してください。



《志太地区栄養士研究会》 代表 増田 姫誉美

私たちの会は平成7年、当時の藤枝保健所の助言を受け栄養士の更なる資質の向上をめざし発足した勉強会です。会場は当初、総合庁舎の一室を借りていましたが現在は藤枝北高校（百銘館）で毎月、最終月曜日の午前中(9:30～)に集まっています。現在、会員は地域活動を中心に学校、公衆衛生、福祉の方等約11名。内容は主に“日本栄養士会雑誌”の読み合せを軸にそれぞれが参加した学会報告や研修会の伝達講習等・・・ときには楽しい情報交換会（食事会）もあります。また、当該地区の健康まつりへの積極的な参加協力等、活動は多岐にわたります。月に一度ではありますが一定の職場を持たない栄養士にとってはとても貴重な時間となっております。これからもより多くの方に仲間になっていただけたらと願っています。興味のある方、是非一度覗いてみてください。

《栄養ケア・ステーション事業について》

＜登録は随時受け付けています！！＞

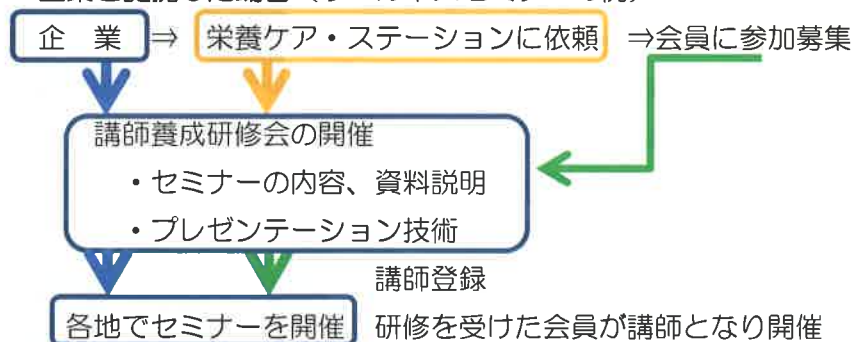
食に関するアドバイス等を必要とする診療所や一般保険者等からの要望に応じて、栄養士・管理栄養士を紹介する事業が栄養ケア・ステーションです。最近では、食育推進や高齢者支援など、指導、栄養管理・訪問なども事業依頼がありますが、十分に対応するだけの登録者数には至りません。

登録は在職者を含め、全会員が対象です。

趣旨に賛同し御協力頂ける会員を随時募集中です。

＜受託事業の流れを紹介します＞

企業と提携した場合（ウエルネスセミナーの例）



＜在宅訪問栄養食事指導：地域・地元で働いてみませんか＞

地域包括ケアシステムの構想において、従来の栄養食事指導と共に、在宅訪問栄養食事指導の需要が高まっています。地域住民が退院後あるいは在宅で安心して暮らしていく為に、継続した病態、栄養管理が必要となります。

栄養ケア・ステーション事業として、今年度は訪問栄養食事指導をテーマにした研修会（受益者負担）を12月11日に開催、39名の参加がありました。地域別のディスカッションでは、今後活動を具体的に進めていくため、様々な意見が発表されました。それらを踏まえて症例報告や訪問のノウハウを学ぶ研修会なども検討していきたいと思います。多くの皆様の登録、研修会等の参加をお待ちしています！

【編集後記】

1年という時間は本当に短いものでした。しかし、編集をさせて頂いて、本当にたくさんの事業が行われたことを改めて感じました。

様々な事業が実行されて、種が芽になっていきます。

栄養士会は、会員で作り上げる会です。静岡県内で働いている

栄養士・管理栄養士みんなで花を咲かせていきましょう。（田森・鈴木）



発行日 平成29年5月

発行所 公益社団法人 静岡県栄養士会

〒422-8076 静岡市駿河区八幡 1-1-4 東海整備ビル4階

電話 054-282-5507 FAX 054-282-5537